

田辺恭一 あの頃の風景

TANABE Kyoichi
Solo Exhibition



題名不詳 制作年不詳 個人蔵

2025年

9月6日 | 土 | — | 11月24日 | 月・祝 |

観覧料 : 一般500円(450円) 高校・大学生400円(350円) 小・中学生300円(250円)

※()内は20名以上の団体料金。

※水俣市・葦北郡内の学校による利用は事前申請により無料。

※津奈木町在住または津奈木町の学校に在籍する小・中学生は無料。

開館時間 : 10:00~17:00(入館は16:30まで)

休館日 : 水曜日(祝日の場合は翌平日)

会場 : 1階展示室

主催 : つなぎ美術館(津奈木町)

協力 : 公益財団法人 島田美術館

 つなぎ美術館
TSUNAGI ART MUSEUM

〒869-5603 熊本県葦北郡津奈木町岩城494

TEL : 0966-61-2222 FAX : 0966-61-2223

www.tsunagi-art.jp



《正妙寺町》1987年 島田美術館蔵

田辺恭一

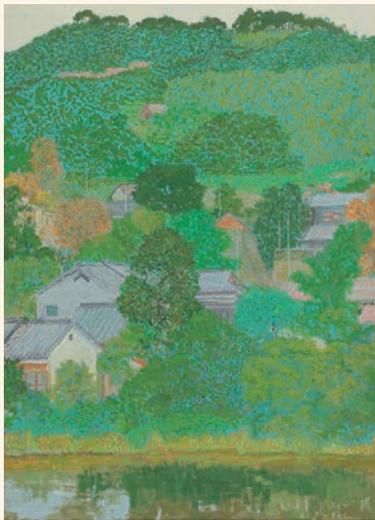
あの頃の風景

2025年

9月6日(土) — 11月24日(月・祝)

田辺恭一(1918~2013)は、熊本城下の商人・職人の町として知られる川端町に生まれました。小学6年生のときに画家を志すようになった田辺は、父の勧めで進学した熊本師範学校在学中に、東光会熊本支部が主催する銀光展で初めて入選を果たします。卒業後は県内の小中学校で教鞭を執りながら、公募展などへ出品を続け、映画や文学へも関心を深めていきました。また、多くの文化人がつどった喫茶「カリガリ」に通い、石牟礼道子や渡辺京二らが刊行していた文芸誌にも寄稿し、のちに小説を出版するなど、多才な一面も見せています。やがて、公募展での入選に力を注ぐ画壇のあり方に違和感を覚え、次第に距離を置くようになります。退職後は、何気ない日常の舞台でもある熊本の「町」を描くことに専念し、映画評論家の藤川治水からは「辻絵師」と名付けられ、第二次海老原美術研究所の所長を務めた境野一之からも、親しみを込めて「絵師」と評されました。本展では、退職後に取り組んだ「町」シリーズと、その制作過程で描いたスケッチのほか、新聞連載小説の挿絵の中から終戦前後の熊本のようすを描いた作品も展示します。

TANABE Kyoichi Solo Exhibition



《春甜(はるたけなわ)》制作年不詳 個人蔵



題名不詳 制作年不詳 個人蔵



《交通センター》1983年 島田美術館蔵



《町その3 津の浦町》制作年不詳 島田美術館蔵



熊本日日新聞連載小説・福島次郎『いつまで草』挿絵 2004年頃 個人蔵



熊本日日新聞連載小説・福島次郎『いつまで草』挿絵 2004年頃 個人蔵



《小沢町ーごないから》1988年 島田美術館蔵



〒869-5603 熊本県葦北郡津奈木町岩城494
TEL: 0966-61-2222 FAX: 0966-61-2223
www.tsunagi-art.jp



九州産交バス/つなぎ温泉前バス停から徒歩2分
肥薩おれんじ鉄道/津奈木駅から徒歩10分
南九州西回り自動車道/津奈木ICから車で3分
JR九州新幹線/新水俣駅から車で10分
※運行状況・道路状況は事前にお調べください。

